【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和1年9月26日(2019.9.26)

【公表番号】特表2018-531228(P2018-531228A)
【公表日】平成30年10月25日(2018.10.25)
【年通号数】公開・登録公報2018-041
【出願番号】特願2018-513856(P2018-513856)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/19　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　21/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　41/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/19
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　21/00
Ａ６１Ｐ　41/00

【手続補正書】
【提出日】令和1年8月15日(2019.8.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む、軟組織外傷からの回復を増強するための組成物。
【請求項２】
軟組織外傷からの回復が、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷からの回復と比較して改善される、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
軟組織外傷が外科的なものである、請求項１に記載の組成物。
【請求項４】
外科処置後に数日、数週または数か月の期間、投与される、請求項３に記載の組成物。
【請求項５】
軟組織外傷が急性のものである、請求項１に記載の組成物。
【請求項６】
軟組織外傷が非急性のものである、請求項１に記載の組成物。
【請求項７】
ＨＭＢが、それの遊離酸形、それの塩、それのエステル、およびそれのラクトンからなる群から選択される、請求項１に記載の組成物。
【請求項８】
塩が、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、クロム塩およびカルシウム塩からなる群から選択される、請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
周術期に投与される、請求項１に記載の組成物。
【請求項１０】

０．５ｇ～３０ｇの量で投与される、請求項１に記載の組成物。
【請求項１１】
体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む、軟組織外傷からの回復時間を短縮するための組成物。
【請求項１２】
組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷からの回復時間と比較して回復時間がより短い、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１３】
軟組織外傷が外科的なものである、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１４】
外科処置後に数日、数週または数か月の期間、投与される、請求項１３に記載の組成物。
【請求項１５】
軟組織外傷が急性のものである、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１６】
軟組織外傷が非急性のものである、請求項１に記載の組成物。
【請求項１７】
ＨＭＢが、それの遊離酸形、それの塩、それのエステル、およびそれのラクトンからなる群から選択される、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１８】
塩が、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、クロム塩およびカルシウム塩からなる群から選択される、請求項１７に記載の組成物。
【請求項１９】
周術期に投与される、請求項１１に記載の組成物。
【請求項２０】
０．５グラム～３０グラムの量で投与される、請求項１１に記載の組成物。
【請求項２１】
軟組織外傷の後に数日、数週または数か月の期間、投与される、請求項１１に記載の組成物。
【請求項２２】
体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む、軟組織外傷からの治癒の改善するための組成物。
【請求項２３】
組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織治癒と比較して軟組織治癒が改善される、請求項２２に記載の組成物。
【請求項２４】
体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む、軟組織外傷の修復を補助するための組成物。
【請求項２５】
組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷の修復と比較して軟組織外傷の修復が改善される、請求項２４に記載の組成物。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７７】
以上の記載および図面は本発明の具体的態様を含む。以上の態様および本明細書に記載する方法は、当業者の能力、経験および好みに基づいて変更できる。本方法の工程を特定

の順序で単に列記したものは、本方法の工程の順序に対する何らかの制限となるものではない。以上の記載および図面は本発明を説明および図示するにすぎず、特許請求の範囲でそのように限定しない限り、本発明はそれらに限定されない。開示内容を見た当業者は本発明の範囲から逸脱することなく本発明の改変および変更を行なうことができるであろう。

［１］　体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む組成物を、その必要がある動物に投与することを含む、軟組織外傷からの回復を増強する方法。

［２］　軟組織外傷からの回復が、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷からの回復と比較して改善される、［１］に記載の方法。

［３］　軟組織外傷が外科的なものである、［１］に記載の方法。

［４］　外科処置後に数日、数週または数か月の期間、組成物を投与する、［３］に記載の方法。

［５］　軟組織外傷が急性のものである、［１］に記載の方法。

［６］　軟組織外傷が非急性のものである、［１］に記載の方法。

［７］　ＨＭＢが、それの遊離酸形、それの塩、それのエステル、およびそれのラクトンからなる群から選択される、［１］に記載の方法。

［８］　塩が、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、クロム塩およびカルシウム塩からなる群から選択される、［７］に記載の方法。

［９］　周術期に組成物を投与する、［１］に記載の方法。

［１０］　組成物を０．５ｇ～３０ｇの量で投与する、［１］に記載の方法。

［１１］　体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む組成物を、その必要がある動物に投与することを含む、軟組織外傷からの回復時間を短縮する方法。

［１２］　組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷からの回復時間と比較して回復時間がより短い、［１１］に記載の方法。

［１３］　軟組織外傷が外科的なものである、［１１］に記載の方法。

［１４］　外科処置後に数日、数週または数か月の期間、組成物を投与する、［１３］に記載の方法。

［１５］　軟組織外傷が急性のものである、［１１］に記載の方法。

［１６］　軟組織外傷が非急性のものである、［１］に記載の方法。

［１７］　ＨＭＢが、それの遊離酸形、それの塩、それのエステル、およびそれのラクトンからなる群から選択される、［１１］に記載の方法。

［１８］　塩が、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、クロム塩およびカルシウム塩からなる群から選択される、［１７］に記載の方法。

［１９］　周術期に組成物を投与する、［１１］に記載の方法。

［２０］　組成物を０．５グラム～３０グラムの量で投与する、［１１］に記載の方法。

［２１］　軟組織外傷の後に数日、数週または数か月の期間、組成物を投与する、［１１］に記載の方法。

［２２］　体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む組成物を、その必要がある動物に投与することを含む、軟組織外傷からの治癒の改善。

［２３］　組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織治癒と比較して軟組織治癒が改善される、［２２］に記載の方法。

［２４］　体重のキログラム当たり約０．００１から０．２グラムまでのβ－ヒドロキシ－β－メチル酪酸（ＨＭＢ）を含む組成物を、その必要がある動物に投与することを含む、軟組織外傷の修復の補助。

［２５］　組成物を投与した動物について、その組成物を投与しなかった動物における軟組織外傷の修復と比較して軟組織外傷の修復が改善される、［２４］に記載の方法。